

祝 辞

本日、ここ海上自衛隊 第1術科学校 大講堂において、第123期 幹部予定者課程の入校式が、厳粛に挙行されるに当たり、地元、江田島市民を代表して、一言お祝いの御挨拶を申し上げます。

幹部予定者課程に入校される皆様、そして、御臨席の御家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。

皆様は、これまで部隊などにおいて、たくさんの経験、実績を積み重ね、その実績を認められて、晴れて幹部予定者課程へ入校されたと伺っております。また、卒業後は、それぞれ幹部自衛官として、更なる御活躍が期待されております。

そのような皆様をお迎えすることは、地元江田島市としても大きな喜びであり、心から歓迎を申し上げます。

さて、皆様御承知のとおり、この度の「平成30年7月豪雨」では、市内全域において、大規模な土砂災害や浸水害、断水、停電などが発生し、負傷された方もいらっしゃいました。広島県内外の広範囲で、多くの大切な人命が損なわれるなど、甚大な被害を被っております。お亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、負傷された方々、家屋など大切な財産に被害を受けた方々、被災された全ての方々に、心よりお見舞い申し上げます。

この災害に際し、海上自衛隊の皆様には、土砂や倒木、瓦礫の撤去、給水や入浴の支援など、被災者の心に寄り添いながら、被災地の復興のため、本当にたくさんの献身的な人的、物的支援をしていただきました。心から感謝するとともに、厚く御礼申し上げます。

自衛官の皆様が、このような災害復旧支援や、日々、日本国民の生命・財産を守り、平和の安定に向けた防衛任務に、昼夜を問わず懸命に当たられていることは、大変心強く、頼もしく思っております。

どうか、皆様におかれましては、旧海軍兵学校の伝統を受け継ぐここ江田島で、幹部自衛官として、強い責任感と確固たる使命感をもって、高い教養と技能、指導力を身につけていただきたいと思っております。そして卒業後は、その実力を存分に発揮されることを、心から期待しております。

皆様御承知のとおり、ここ江田島は、明治21年（1888年）、今から130年前に、旧海軍兵学校が東京築地から移転し、その後、昭和31年に海上自衛隊をお迎えしてから現在に至る62年間、共存共栄、一体不可分の関係で発展しており、自衛隊の皆様との「縁」や「絆」を大切にしてきた地でございます。

現在、この江田島への移転130周年記念事業として、海上自衛隊の御協力のもと、市内において、「海上自衛隊第1術科学校 教育参考館 特別展」を開催しております。教育参考館初となる市内への、貴重な所蔵品の外部展示・地域公開ということで、市内外の方へ、江田島市が海上自衛隊と歩んできた歴史を振り返り、地域の絆を深める機会をいただき、心から感謝しております。

本市は、四季折々の美しい自然に囲まれ、秀峰、古鷹を望む風光明媚な瀬戸の島として、親しまれております。また、温暖な気候から、1年を通して、海や山など島全体を楽しむことができるアクティビティの宝庫でもあります。

ぜひ、厳しい訓練の合間には、ここ江田島の自然を満喫してください。そして、本市との「縁」を紡ぎながら、思い出深い学生生活を送っていただきたいと思っております。

結びになります。日本国の繁栄、海上自衛隊の益々の御隆盛、御発展、そして御入校される皆様並びに御家族の皆様、御臨席の全ての皆様の、御健勝と更なる御活躍を、心よりお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

平成30年8月28日

江田島市長 明岳 周作

あきおか しゅうさく